

モデレーションを体験

～評価について語り合おう～

新潟市立木戸中学校

関野 幹裕

(評価を語る会(旧：ものづくり魂の会)代表)

1. 用語解説 (注：簡易的なものなので専門家からは指摘が入る余地ありな解説です！)

モデレーション：評価検討会。

ルーブリック：**特定の観点**の評価基準表（スタンダード）。生徒児童と共有し、共通の「ものさし」とすることで、「指導と評価の一体化」に。

(注：題材や作品の包括的な評価でなく、観点到ピンポイントなもの)

スタンダード準拠評価：ルーブリックに基づいた質的評価。

ドメイン準拠評価：できた・できない、点数等に基づいた量的評価。

2. モデレーションで準備するもの

- ・ルーブリック
- ・評価材料（生徒の作品やプリントなど。点数を絞る場合、評価基準にピッタリなものとは基準の区別に迷うもの両方を混ぜるとよい。）
- ・評価検討に必要な小物（模造紙、付箋、ペンなど、はやりのファシリテーション的な小物）
- ・指導資料や指導内容について語れる人（授業者）

3. モデレーションの手順

- ①評価材料と評価の観点についての説明とルーブリックの提示
評価材料には通し番号などをつけておくと良い。
- ②参加者による評価
時間を決めて付箋に評価を書いてもらい、一斉に模造紙に貼ってもらう等の形式で。(他者の評価の影響を受けにくい形式)
- ③評価検討
 - ③-1 参加者の評価が共通している作品に注目し、評価の基準の共通認識を確認する。
 - ③-2 評価がずれている作品に注目し、評価のカットインラインについて協議する。(ここメイン)
 - ③-3 必要に応じて、ルーブリックの表記の改善案を考える。
 - ③-4 評価された作品は、「評価事例集」として専門外の先生方への**貴重な資料**となる。

	A	B	C
①			
②			
③			
④			
⑤			

(模造紙の例)

①←評価材料番号

評価→**A**

評価者名→**家技太郎**